



1 橋から望む市街地とスタンレーパーク。街と自然の距離はこのとおり 2 ライオンゲートブリッジを渡る。大自然への入口もバイクフレンドリー 3 デッキではジャックラッセルも気持ちよさげ 4 フェリーで手軽なクルーズ気分。氷河はないが、削られた地形と山がそこそこに

5 コカニー・ビール。クールなどごしがウマイ 6 「どーだ!」と言わんばかりのハンバーガー 7 シカに食べられずにすんだラズベリーで作ったジャムとパンケーキ。B&Bの朝食の基本はこれ 8 探せばジャグジー付きのB&Bがけっこうある。旅の疲れも吹き飛ばす贅沢なひとときだ 9 初体験のB&B。シリア、ありがとう!

ナダ・トラスト銀行に寄って換金を済ませ、「気をつけてお出かけください」と日本語パンキングセンターのクバス広さんに送り出され、バイクショップへと向かう。旅の相棒には、地元カナダNORCO製のクロスバイクを選んだ。タイヤのゴムの香りも強く、ほぼ新品のようだ。バンクーバーからノースシアアへ続く道は、スタンレーパークの上でライオンゲートブリッジとなる。長さ1.5kmの吊り橋は、広めの歩道兼自転車道が設けられている。橋からはバンクーバー市街の高層ビル、ノースシアアの山々が見え、西のホースシューベイに向かう。サンシャインコーストやナナイモからのフェリーが発着するマリナだ。向こう岸のウエストバンクーバーは高級住宅地として知られ、海を見下ろす南斜面には素敵な家が立ち並ぶ。

街を抜けると森の香りがお出迎え。フィトンチッドに満ちた旧道に入る。ときおりトレニング中のサイクリストとすれ違う。50m程度の起伏を8つほど越え、約1時間でベイに着いた。穏やかな入り江の水面には雪をかぶった山々が姿を映す。海辺なのにスイスの湖を見ているようだ。37・85の周遊券で自転車を持ち込み4回乗船できる。フェリーを待っている、MTBに乗った少年がやってきた。ギブソンのMTBパークに行くの?と聞くと、「シーシェルトのグランパのところに行くんだ。時間があればパークにも寄るつもり」とのこと。デッキでは大連れの

男性と出会った。犬も気持ちよさそうにデイバックに体を包まれ、周囲の絶景を眺めている。

今夜の宿はラングデイルにある「Tutus Retreat B&B」。フェリー到着後、ギブソンランディングへ向かう。細かいアップダウンが5kmほど続く。初日の夕食は嶋田氏の提案で、ギリシャ料理店に決まった。ラムのカパブをバクつき、オカナガンバレーのワイン「Pinot Gris」を1本土産にして、サドルにまたがった。

宿に戻ると「ホットタブの準備ができていますよ」と言われ、まずは庭に据えられたジャグジーにつかる。夜8時過ぎなのに日がまだ高い。ここは北緯49度、樺太に相当する。夕日に映える雪山を眺めながら、明日からの旅に思いを馳せる。体がほぐれたところで上がり、ワインを開けた。すると間髪を入れず佐藤氏がインディアンキャンディーを出してきた。いつの間に入れたのだろう。ぶつ切りのサーモンをメイプルシロップにつけて燻した、カナダならではの一品だ。深いスモークの香りとほんのりとした甘みが肉厚の身に染みてうまい。白ワインともよく合う。道中のポイントを宿の奥さんであるシリアに聞いていたうちに、ポトルはずぐ空いてしまった。「もう一本いかが?」と、ワインセラーから出してきてくれた。明日のルートはもう頭に入りそうもない!

B&Bはその名のとおり、朝食を出してくれる洋風民宿のこと。卵、ソーセージ、パンケーキなどの温か